

令和4年度 横浜カレッジ 自己評価表

1. 学校の教育目標

- (1)感性の向上
- (2)高度な技術力の習得
- (3)豊かな人間性の涵養
- (4)プレゼンテーション能力の育成

2. 令和4年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

項目	実施状況	評価
オンライン教材の工夫と活用の最大化で授業品質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインの特性を最大限に生かし、全学科の学生を対象としたオンデマンド型の資格取得講座を3講座実施。（「サービス接客検定2級講座」「アロマセラピー検定2級講座」「ネットショップ実務士補検定講座」）新入生の約3割が受講し、検定受験まで到達した学生の合格率は90%以上と高く、導入目的であった自己成長していくマインドの育成に一定の効果があった。次年度は受講者増加を睨み、早期に講座のアナウンスを実施する。 ・オンライン教材「すららネット」の活用により、個々のレベルにあった学習内容を提供することで、基礎学力の向上を目指した。 	○
作業の平準化、標準化、効率化、最大化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ビューティースタylist科でSwipe Video（自由視点映像ソリューション）を先行導入し、美容師国家試験の実技対策を実施。実技分野の合格率も98.3%と好結果となった。 ・スマートフォン等でいつでもどこでも各自の見たい視点で技術を確認できるため、教員によるマンツーマン指導の軽減ならびに業務の効率化に繋がった。 ・次年度は、全学科でSwipe Videoの導入を図り、実技・実習科目の学習効果の向上に着手。 	○
教務部の組織的、機動的運営の構築、推進	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年設置したマネジメント運営グループ（校務分掌）に加え、リーダーを軸に効率的な学科運営を行う目的で、学科別の業務グループを新設。教務部全体として組織的に業務が行える体制を整備した。 ・従来からの校務分掌担当については、偏りがあり、属人化している業務も発生しているため、内容や担当者を定期的に見直すことが課題。 	△

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・ 学校における職業教育の特色は明確か	④ 3 2 1
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
・ 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に 周知されているか	④ 3 2 1
・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

① 課題

ファッション・美容・ブライダルの各業界においてもDX化が進む中、最新技術を習得し学生に教授できる教員の育成が課題。

② 今後の改善方策

本学園グループ姉妹校を横断したプロジェクト活動を通じて、学生が主体的に学び合える教育内容や環境の整備を進める。また、新しい教育手法(VTS)を用いて思考力やコミュニケーション力の育成に着手する。

③ 特記事項

美容の多様化に対応し、施術者向けのメンズヘアメイク検定初級を創設した。
美容系在校生80名が初級を取得。男女問わず、学生からも美容の可能性の新たな広がり好評。
また、ヘアメイク志向者の高まりや、業界ニーズに応え、令和6年度生より、新たな美容師養成学科として「ヘアメイク・アイデザイン科」を開設することにし、準備に着手した。

(2). 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・ 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	④ 3 2 1
・ 人事、給与に関する制度は整備されているか	④ 3 2 1
・ 教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1
・ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

① 課題

Swipe Video（自由視点映像ソリューション）を一部学科で先行導入した。コンテンツの質と量の充実、学生への動機付けが課題。

② 今後の改善方策

次年度は全学科で導入予定。技術面を十分にフォローできるコンテンツの作成と質の向上を計画していく。

③ 特記事項

教職員の勤怠管理システムが、本学園全体で導入され、勤怠管理の情報の共有化と事務作業の軽減が図られた。

(3). 教育活動

a. ファッションライフデザイン学科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 ③ 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	④ 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

ファッション業界全体で進められている DX 化に対応するデジタル技術の向上とそれに伴う次世代の感性を育成することが課題。また、新型コロナウイルス感染が終息に向かう中、見直されている対面による接客や、ハンドクラフト技術などマルチなスキルを兼ね備えた人財育成のための教育の提供。

② 今後の改善方策

R4 年度は、(株)TFL と連携し、3D モデリングの授業を導入。アパレル企業や繊維商社と協力のもと、3D モデリングを活用した商品企画と、R5 年度実施の展示予約販売の準備を行った。今後は、(株)FMB はじめ企業でのインターンシップで実践力を養い、3D モデリストとしての就職内定へ発展させていく。

③ 特記事項

継続してエントリーしている「第 19 回ビジネスコンペティション」において、「アイデア賞」、「プレゼン賞」を受賞。通常は1年以上学習をしてから受験する 3D モデリスト検定3級に、導入から半年余りで合格者を輩出。※R4 年 10 月、R5 年 4 月の 2 回の同検定の合格率は 71.4%(10 名/14 名)

b. ファッションビジネス科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 3 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 2 1

① 課題

店舗と EC を融合させたオムニチャネルなど、変化するファッションビジネスの流れを理解し、実践で活躍できる素地を養う教育の深化が課題。

② 今後の改善方策

R3 年度より始めた学生による Web ショップを継続実施することで、商品企画・撮影・SNS を活用した集客・実店舗との連動について体験的かつ実践的に学ぶ場を構築する。R5 年度は、商品アピールのためのファッションショーの実施を姉妹校と連動し計画。

③ 特記事項

授業内でメイクファッションを制作し、11 月に期間限定でラフォーレ原宿「愛と狂気のマーケット」へ出店。学生 Web ショップとも連動させ両店舗で合計 8 点売上げることができ、学生の達成感につながった。R5 年度も継続実施。

c. ブライダル科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 3 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 3 2 1
・関連分野における先進的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 2 1

① 課題

現場実習、体験、経験の少なさから、自主性・協調性に加え、他者とのコミュニケーションに対して苦手意識をもつ学生が増加傾向にある。業界特性として、コミュニケーション力は必須であるため、グループ作業を通して醸成していく事が課題。

② 今後の改善方策

イベント制作、インターンシップ等により、業界の理解を深め、コミュニケーション力を高めるためのカリキュラムを再構築し、常に教育活動内容の PDCA を行う。目的・目標意識を向上させ、就職後に即戦力となる優秀な人材輩出に注力する。

③ 特記事項

()

d. ビューティーコーディネーター科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4 ③ 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

ビューティービジネスに対する理解を深め、自身のキャリアをリアルに考えることができる講座の実施。ニーズの多様化による性別に拘らない人材育成のためのカリキュラム。

② 今後の改善方策

令和5年度より、Eコマースを導入している企業のECサイトでの業界動向や、オンライン接客に関して学ぶ機会を創出。エステティックコースでは、近年のウェルネス分野への関心の高まりを鑑み、身体の内側・外側の両面のケアを意識した生活習慣・健康・運動に関する授業を構築。

③ 特記事項

令和5年度生より、上記カリキュラム変更に伴い、エステティックコースをエステティック・ウェルネスコースにコース名を変更。

e. ビューティースタylist科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 3 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 2 1

① 課題

多くの企業連携授業を実施し、実務に即した授業の実施に努めてきたが、より効果的で実践的なものに学生のモチベーションを向上させるため、実施時期や時間数などの見直しが必要。

② 今後の改善方策

これまで消極的であったインターンシップについて、就職活動や卒業年次に限らず、1年次より積極的に取り組んでいく。

③ 特記事項

ヘアメイク志向者の高まりや、業界ニーズに応え、令和6年度生より、新たな美容師養成学科として「ヘアメイク・アイデザイン科」を開設することにし、準備に着手した。それに伴い、2学科をわかりやすく訴求するために、ビューティースタylist科を「美容師科」に学科名変更を行なう手続きを行った。

(4). 教育環境

a. ファッションライフデザイン学科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 ③ 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1

① 課題

コロナ禍で中止となったインターンシップ先企業とのネットワークの再構築が課題。
また、新規導入した 3D モデリング教育と連動したインターンシップ受け入れ先の開拓が急務。

② 今後の改善方策

R4 年度は、ユニフォーム企業や地元商業施設からの課題提示に取り組む新規連携を複数件実施。これらを継続実施することで定着させる。R5 年度より実施する 3D モデリングのインターンシップについては、授業連携企業の関連会社と具体的に取り組み、就職につながる実践力を養成する。

③ 特記事項

R4 年度は、3D モデリング教育のために CLO の実習環境とテクスチャ・スキャナを整備。FLD 学科 2・3 年生全員が受講できる体制を整えた。R5 年度に向け、本校隣接ホテルが 25 周年記念の一環でユニフォームをリニューアルすることになり、本校がデザイン企画に参画することになった。また、R4 年度に引き続き、高島屋横浜店×アーリーマウンテン(レザーメーカー)×在校生によるレザー商品開発が、R5 年度 5 月スタートで計画されている。

b. ファッションビジネス科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 ② 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1

① 課題

学生の就職へのモチベーションにつながっていた販売職のアルバイトやインターンシップが、コロナ禍で激減し、学生の就職活動への取り組みにも影響が出た。経済状況が戻り、アパレルビジネスの動向が変化中、学生の就職活動につながるインターンシップやアルバイトの再開拓が課題。

② 今後の改善方策

これまでアパレル企業の指導で実施していた学内の販売ロールプレイングコンテストを発展させるため、R5 年度は、アパレル企業主催の学生ロールプレイングコンテストに参画することとした。対外的なコンテストに参加し企業から評価を受けることで学生のモチベーション向上と、教育内容の改善につなげたい。スタイリスト希望者には、引き続き、非常勤講師(現役スタイリスト)や卒業生ネットワークによるインターンシップで就職につなげていく。

③ 特記事項

R5年度に向け、アパレル企業の新規ブランドのセールスプロモーションに参画するインターンシップを計画。企業からは、学生に、自身の SNS の活用によるプロモーションについても課題が出されるなど実践的な内容となっている。

c. ブライダル科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1

① 課題

産学連携イベント制作において、リハーサル、実習を行うスペースが不足している。

② 今後の改善方策

継続して本学姉妹校の施設・設備も活用していく。

③ 特記事項

d. ビューティーコーディネーター科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1

① 課題

現状では、全ての教室にプロジェクターが設置されているが、既存のプロジェクターでは、色の確認がしづらい状況。効果的な授業のためには精細な画像に対応したモニターの設定が必須。

② 今後の改善方策

令和6年度に向けた教室改修計画の中で、適切な機器を選定し導入する。

③ 特記事項

()

e. ビューティースタylist科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1

① 課題

(AV 機器 (モニター) の増設はできたが、空調設備などの健康・環境面における改善が引き続き必要。)

② 今後の改善方策

(令和6年度に向けた教室改修で、教室の広さやレイアウトに合わせ、サーキュレーター・空気清浄機を設置を計画する。)

③ 特記事項

(ヘアメイクサークルを立ち上げ、学外イベントや撮影現場にヘアメイクアシスタントとして参加。学生の意欲醸成と技術力向上に繋がった。)

(5). 学修成果

a. ファッションライフデザイン学科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	4 (3) 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	(4) 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	(4) 3 2 1

① 課題

(新型コロナウイルス感染が終息に向かい、業界全体の求人数は増加傾向。専門職・総合職への就職内定は例年通りの実績。技術職の採用状況も新規採用枠が拡大、また DX に伴う新職種、3Dデジタルオペレーション技術採用も視野に入れ、従来通りの実技試験課題などの採用試験対策の強化が重要。)

② 今後の改善方策

様々な職場で即戦力として活躍できる人材の育成を念頭に、幅広いインターンシップ先を開拓し、学生の希望職種に応じた参加の可能性を広げる。インターンシップにより、職種に求められる知識や技術の理解と人間力の向上を図る。また、パターンや 3D モデリング等、就職活動時の実技試験対策についても、教員による指導体制を整え強化する。

③ 特記事項

b. ファッションビジネス科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	4 3 (2) 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	4 3 (2) 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	(4) 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	(4) 3 2 1

① 課題

コロナ禍で販売員のアルバイトが激減し、販売経験を持つ学生が少なく、R3 年度に引き続き、就職活動へのモチベーションを上げる指導や職種・業種などの視野を広げるための指導が必須となった。また、欠席超過による退学者の増加が課題。

② 今後の改善方策

担任だけでなく、学科教員全員で学生状況(就職・学校生活)を把握できるよう、情報共有を徹底。いつでもどの教員でも学生へ声がけができるようにしておく。R5 年度に向けては、アパレル企業のアルバイト採用枠が拡大してきており、新たな企業連携も計画されている。学生にアパレルでの経験を積ませることで、業界理解と就職への意欲を醸成していく。

③ 特記事項

c. ブライダル科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 3 ② 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	④ 3 2 1

① 課題

退学者数に課題が残った。集団行動に対する苦手意識があり、イベント制作等でグループ作業を行う際、コミュニケーション不足による不和が生じ、人間関係の悪化にまで及んだことが原因であるケースが複数見られた。

② 今後の改善方策

コロナ禍による対人コミュニケーション能力の低下を受け、学生間のみならず、学生と教員の間にも良好なコミュニケーションが図れるよう、カリキュラム内容再構築、学生の情報共有の強化、合理的配慮に対応できるようガイドラインを設定する。

③ 特記事項

R4 年度サービス接遇実務検定 文部科学大臣賞 団体受賞
R4 年度サービス接遇実務検定 日本秘書クラブ会長賞 個人 ブライダル科 2 年生 1 名受賞
ブライダルコーディネーター検定(国家検定) 3 級合格 67 名(合格率 97%)
昨年度に引き続き 2 級にも 2 名合格。

d. ビューティーコーディネーター科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 3 ② 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 ③ 2 1

① 課題

退学者数に課題が残った。入学前より精神面で問題を抱えていることが原因であるケースが多かった。

② 今後の改善方策

幅広い美容の職種に対する理解を深める為、1年次より職業理解に関する講座やイベントを実施。将来、自分がどのように仕事をしていくか、具体的なイメージができるような機会を創出。また、入学後の早い段階で入学者の特性を把握し、面談を行うと共に教員間での情報共有とサポート体制を強化。

③ 特記事項

美容の多様化に対応し、学内でメンズヘアメイクに関する検定制度(初級)を創設。希望者 51 名が受験し全員が合格。次年度は上級のカリキュラムと検定の作成を計画

e. ビューティースタylist科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	4 3 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 3 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	4 3 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 3 2 1

① 課題

2年次退学者数と美容師国家試験の結果に課題が残った。特に就職活動や試験受験前の学生のモチベーション維持・向上に対する対策が課題。

② 今後の改善方策

美容師国家試験合格までの2年間計画のロードマップを作成し、合格率向上や退学率低減に繋がるよう、技術検定試験や筆記模擬試験を効果的なタイミングで実施。

③ 特記事項

令和4年度は、都内難関企業への就職内定を決める学生が数名出た。継続的に優良企業や難関企業への就職実績を残していくため、定期的に外部との情報共有に努め、就職サポートに活かしていく。美容の多様化に対応し、学内でメンズヘアメイクに関する検定制度(初級)を創設。希望者 29 名が受験し全員合格。次年度は上級のカリキュラムと検定の作成を計画。

(6). 学生支援

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④ 3 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1

① 課題

奨学生希望者の増加に伴い、利用者の理解度に合わせたきめ細やかな情報提供を行う事が課題。

② 今後の改善方策

校内の掲示板やデジタルサイネージを活用して周知するとともに、全体説明のみならず、希望者には個別対応の時間を設けるなど、利用者の理解度を深めるための対策を講じていく。

③ 特記事項

令和3年度より卒業生への就職支援制度を開始。卒業時未内定であった者や卒業後早期に退職してしまった者に希望により就職先の斡旋を行っている。ビューティースタylist科で、在学中に美容師国家資格が取得できなかった者には、卒業後も受験対策を継続している。昨年より再開した、高校生向けキャリア講座(仕事の学び場(4講座)、総専協夏期講座(2講座))、県立高校のプライダル科インターンシップ受入れについて、コロナ感染対策を施し今年度も全て開催した。

(7). 学生の受入れ募集

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

① 課題

令和3年度に引き続き、コロナ禍の中での活動となったが、オンラインと対面を併用し、進学に必要な情報提供ができた。

② 今後の改善方策

コロナ感染対策の緩和傾向も睨みつつ、状況に応じて進学に必要な情報提供を Web や SNS、オープンキャンパスなどを通じて発信していく。

③ 特記事項

(8). 財務

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3 準備中・整備中:2、未着手・未整備:1			
	・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

③ 特記事項

財務状況は、安定しており、継続的な学校運営には問題がない状況である。

(9). 法令等の遵守

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
・ 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	3	2	1
・ 自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

① 課題

平成 25 年度より、自己評価を実施し、学校関係者評価委員会等で意見を聴取し改善には努めているが、校舎・設備・環境に関わる課題や、学生の経済支援については制約もあり、年度内や本校のみの施策では解決しにくいものがある。

② 今後の改善方策

校舎の環境整備については、令和 2 年度より、3 か年計画で充実を図っており、令和 5 年度の整備完了を目指す。

③ 特記事項

自己評価、学校関係者評価委員会の議事録は、ホームページ上で公開している。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	④ 3 2 1

① 課題

令和 3 年度に引き続き、コロナの状況を見極めながら、地元プロリーグや地域イベントの活動に参加した。なお、令和 4 年度新たに立ち上げたサークル活動などを通じて、社会貢献や地域貢献の活動の企画から実行までを継続的に行うことが課題。

② 今後の改善方策

ネイルサークル、ヘアサークルが本格的に立ち上がったので、サークル活動に定例的・継続的に取り組む地域イベント等を組み込みことで、地域への視野を広げ、ボランティアへの積極的な参加を促す。

③ 特記事項

姉妹校ならびに卒業生と連携しヘアドネーション活動を実施。がん治療中の女性にウィッグを贈るプロジェクト「キレイの力」プロジェクトに医療用ウィッグを作るための毛髪を寄付した。
2018 年から熊本地震の被災地で使用されたブルーシートをリサイクルするワークショップを共催。参加した子供たちと一緒にサコッシュを作成し、参加費は災害復興支援団体に寄付した。

以上